

数学

神戸大学[理系] (前期)

<全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式

記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

最近では数学Ⅲの微分法・積分法の問題が2題程度出題されることが多い。

その他トピックス

今年は文系と設定が同じで数値が異なる問題 (難易度が文系よりも上) が出題された。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	複素数 数列	数学Ⅱ 数学B	(2)は数学的帰納法を用いる。	標準
2	積分法	数学Ⅲ	定積分の計算。 単なる計算問題が出題されることは稀である。	やや易
3	ベクトル 式と証明	数学B 数学Ⅱ	ベクトルの内積。 (2)は相加平均と相乗平均の大小関係を用いればよい。	標準
4	図形と方程式 複素数と方程式	数学Ⅱ	放物線と円の共有点についての考察。 (3)は4次方程式を因数分解して考える。	標準
5	微分法・積分法	数Ⅲ	媒介変数表示された曲線 (半円)。 (3)は定積分が道のりであることを利用する。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

例年数学Ⅲの分野から少なくとも2題は出題されるから、強化する必要がある。
数学Ⅲ以外では場合の数・確率、数列、整数、ベクトルなどがよく出題されており、注意したい。
融合問題も多く、実践演習で思考力を強化したい。